

W杯に出場すると 経済的に豊かになるのか

愛知学院大学 三好ゼミ
春日宏美 河原潤希 首藤天樹 滝誠
寺島昌平 長嶋大貴 廣井優樹

研究動機

「ジャパンはなぜ負けるのか」という本には、
W杯を主催しても経済効果は上がり、幸福度は上
がったと書いてあったが、私たちは出場した国はどう
なるのか疑問に思い、研究した。

世界中が大会を誘致したがる理由

- ▶ 世界中には大きなスポーツイベントを開催すれば国が潤うという『常識』がある。
- ▶ 国がワールドカップやオリンピックの開催地に立候補すると、政治家たちは「膨大な経済効果がある」と説く。
- ▶ その理由として、テレビ観戦者に向けて都市の宣伝ができたり、新しく道路やスタジアムが作られるからである。
- ▶ しかし現実には、スポーツイベントを開催してもまったくリッチになれない。国が開催したがる理由は、開催することで幸せになれるからである。

みなが思い込んでいる主催国の経済効果

スタジアムを建てればまず建設業界に雇用が生まれ、完成後はスタジアムで働く人の雇用を生む。



ファンがあらゆるところから集まってきて金を使う。



ファンにサービスを提供する新しいビジネスが生まれる。



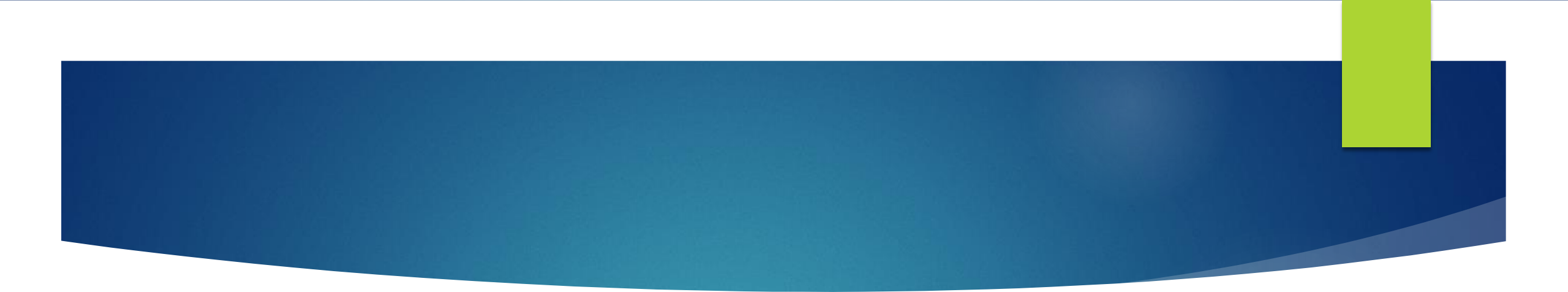
スタジアム周辺に人が移り住み、さらに多くの人に移り住みたいと思う。



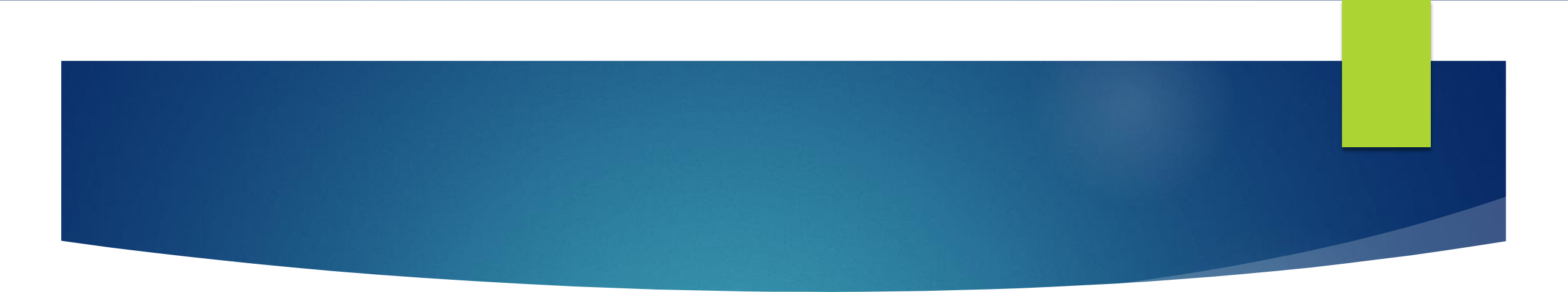
そうなるともっと多くのビジネスと雇用が生まれる。

まやかしの経済効果

- ▶ 学者ロブ・バーデは、「スポーツスタジアムの建設は市の財政にプラスの影響をほとんどもたらさず、むしろスポーツ振興に積極的な都市の収入減につながる可能性がある」と説く。
- ▶ バーデの言い分として多くの理由がある。

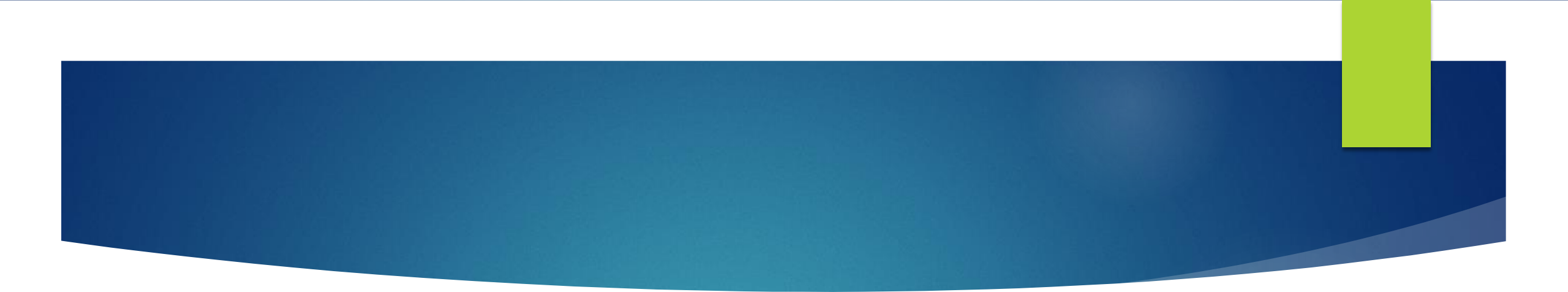
- 
- ▶ 新しいスタジアムを建てる建設労働者がどこから来るのか。
 - ▶ 市が財政を均衡させなくてはならないから、スタジアムにお金を使えば病院や学校に回す予算はその分減る。
 - ▶ そこで職が失われれば、スタジアムのもたらす利益からは差し引いて考えるべきだ。
 - ▶ もしスタジアムが約束どおりの利益を生み出さなかったらどうなるか。

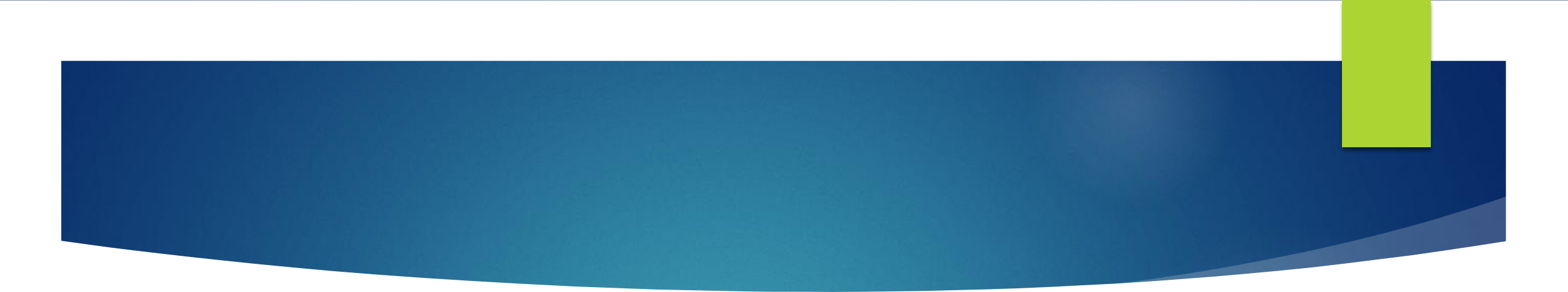
などと多くの理由がある。

- 
- ▶ バーデはさらに研究を進めた。
 - ▶ スタジアムが建設されなかった場合の経済状況は予測できないかもしれないが、スポーツチームの本拠地となった都市と、そうでない都市の経済成長を比較することはできる。
 - ▶ スタジアム建設推進派が正しければ、スタジアムのある都市はない都市より経済状況がよくなっているはずだと彼は考えた。
 - ▶ バーデは、さまざまな都市の市民 1 人あたりの収入や新たに建設された企業の数、新規雇用などのデータを分析した。
 - ▶ そして、突っ込めば突っ込むほど、スタジアムの有無では経済状況の差は見えなくなった。

外国人ファンは金を落とさない

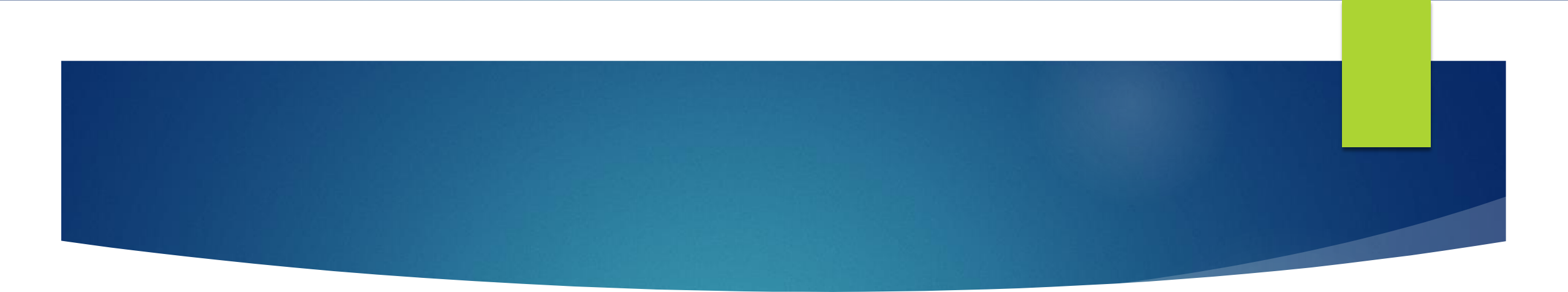
- ▶ マインツ大学のホルガー・プロイスの率いる経済学者のチームは、ワールドカップにやってきた人々を調べたところ、ワールドカップを見ることを目的にしてドイツに来た外国人は全体の5分の1しかいなかった。
- ▶ 実に観戦者の半数以上はドイツ人だったのである。
- ▶ ドイツ人はもしワールドカップがなかったら映画や外食などほかの娯楽に使っていただろう。
- ▶ そのため彼らがワールドカップにお金を使えば、ドイツ経済のほかの部分で彼らの出費が減ったことになる。
- ▶ よって大会がもたらす利益はこの要素でほとんど相殺される。

- 
- ▶ ワールドカップに来ていたほかの外国人は、2つのグループに分けられる。
 - ▶ まず「訪問時期変更組」_どうせドイツに行くことになっていたからワールドカップ時期中に合わせた外国人だ。
 - ▶ もう1つは「ついで組」_ちょうど大会期間中にドイツにいたので、ワールドカップを見に来た外国人である。
 - ▶ この2つのグループはワールドカップがなくてもドイツでお金を使っていたので、経済を押し上げる効果はほとんどない。この人たちはワールドカップが無くてドイツでお金を使っていたからである。

- 
- ▶ ワールドカップに来た人々がもたらした収入の3分の1以上は、スタジアムに1度も入らず「パブリック・ビューイング」の大きなスクリーンで試合を見ただけの人たちが落としたものだった。
 - ▶ ドイツ経済にとってはワールドカップは、どうということとはなかった。
 - ▶ ほかの研究もほとんど同じ結果に達している。
 - ▶ スポーツイベントを開催しても、観光客は増えず、フルタイムの雇用も生まれず、経済が伸びるわけでもない。
 - ▶ それに宿泊施設、食事、交通など多くの費用がかかる。

では、なぜワールドカップを主催したがるのか

- ▶ ワールドカップを開いても開催地はリッチにならない。
- ▶ なら、なぜワールドカップを主催したがるのか。
- ▶ その答えはお金ではなく、むしろ裕福な国々に表れ始めた「幸福の政治学」に関係している。
- ▶ 社会科学者は、幸福の研究をずいぶん進めている。
- ▶ 毎年、ヨーロッパ各国の市民1000人ずつに幸福感の度合いを訪ねている。
- ▶ この調査は40年ほど続いており、いくつかの発見があった。

- 
- ▶ 幸福感というのは年齢や性別、社会的地位も関係している。
 - ▶ そして分析すると、ワールドカップの開催地になると国民の幸福感が高まることが判明した。
 - ▶ 大会を主催することと幸福感の関係を調べたところ、相関関係がみられた。自国でワールドカップが開催された後の人々の回答は幸福感の高まりを示していた。
 - ▶ 結果としてワールドカップ開催国になっても裕福にはなれないが、幸せになることが分かった。

まとめ

- ▶ 世界中がワールドカップのような大会を開催したがるのは、国民の幸福感を上げるためだということを知ることができた。
- ▶ そこで私たちは、ワールドカップに参加した国とそうでない国で経済効果と幸福度はどのように変化するのか調査することにした。

「ジャパン」はなぜ負けるのか 経済学が解明するサッカーの不条理

サイモン・クーパー ステファン・シマンスキー より作成

W杯に出場すると国の所得は増加するのか？

▶ 調査方法

2010年W杯出場国の出場前後の1人当たりの所得を調べ、
所得の増減の平均を出した。

▶ 結果

出場国の所得は、「 $-0.022339\text{US\$}$ 」 減少した。

▶ W杯出場国以外の国の所得は？

出場をしていない国は「 $-0.012396\text{ US\$}$ 」 減少した。

• **The Database** Penn World Table version 9.0

<https://www.rug.nl/ggdc/productivity/pwt/>

より作成

- ▶ 先進国のW杯出場国の一人当たりの国民所得は「0.003026 US\$」増加した。
先進国のW杯不出場国は「0.001343 US\$」増加した。
- ▶ 発展途上国のW杯出場国一人当たりの国民所得は「0.000417US\$」増加した。
発展途上国のW杯不出場国は「0.000941US\$」増加した。
- ▶ 先進国はW杯出場国のほうが国民所得が増加していた。
- ▶ 発展途上国はW杯不出場国のほうが国民所得が増加していた。

• **The Database** Penn World Table version 9.0

<https://www.rug.nl/ggdc/productivity/pwt/>

より作成

幸福度とは、何か。

- ▶ 世界幸福度報告とは、国際連合の持続可能開発ソリューションネットワークが発行する、幸福度調査のレポートである。
- ▶ この調査における幸福度とは、自分の幸福度が0から10のどの段階にあるかを答える世論調査によって得られた数値の平均値であり、主観的な値である。
- ▶ 報告においては、この幸福度を、GDPや健康寿命を含む6つの説明変数を用いて回帰分析し、各説明変数の寄与を求めて分析している。

2010年W杯出場国の幸福度データ

国名	2010～2012	2012～2014	前回比
ドイツ	26. 6.672	26. 6.750	0.078
ブラジル	24. 6.849	16. 6.983	0.134
ポルトガル	85. 5.101	88. 5.098	-0.003
アルゼンチン	29. 6.562	30. 6.574	0.012
フランス	25. 6.764	29. 6.575	-0.189
スペイン	38. 6.322	36. 6.329	0.007
ペルー	55. 5.776	58. 5.824	0.048
スイス	3. 7.650	1. 7.587	-0.061
イングランド	22. 6.883	21. 6.867	-0.016
ウルグアイ	37. 6.355	32. 6.485	0.13
デンマーク	1. 7.693	3. 7.527	-0.166
アイスランド	9. 7.355	2. 7.561	0.206
コスタリカ	12. 7.257	12. 7.226	-0.031

2010年W杯出場していない国の幸福度データ

国名	2010～2012	2012～2014	前回比
ベルギー	21. 6.967	19. 6.937	-0.03
クロアチア	58. 5.661	62. 5.759	0.098
ロシア	68. 5.464	64. 5.716	0.252
サウジアラビア	33. 6.480	35. 6.411	-0.069
エジプト	130. 4.273	135. 4.194	-0.079
中国	44.725	47.9211	0.087
コロンビア	35. 6.416	33. 6.477	0.061
ポーランド	51. 5.822	60. 5.791	-0.031
トルコ	47.6205	48.621	-0.061

W杯がもたらすその後の影響

- ▶ 全体的に幸福度は減少する傾向にある。
- ▶ アジアにおいては、先進国は減少傾向にある。
- ▶ ヨーロッパにおいても減少している国が多い。
- ▶ 南米では、増加している国が多い。
- ▶ 開催地のある地域は平均的に幸福度が増加する傾向がある。
- ▶ 幸福度が減少している国の特徴として、年間平均所得が多い国が多い。
- ▶ 幸福度が増加している国々と減少している国々、それぞれ共通する点はない。

結論

W杯に出場している国のほうが、年間一人あたりの所得が増加していなかった。

それは、先進国が多く、増加が少ないからである。

書籍では、W杯出場後では増加する傾向にあるそうだが、我々の調査の結果では全体的に減少傾向になることが分かった。

W杯に出たからといって幸福度が増加するわけではない。
ただし、開催国のある地域は全体的に増加する傾向がある。

参考文献

- ◆ **The Database** Penn World Table version 9.0
<https://www.rug.nl/ggdc/productivity/pwt/>
- ◆ **「ジャパン」はなぜ負けるのか 経済学が解明するサッカーの不条理**
サイモン・クーパー ステファン・シマンスキー
- ◆ **World Happiness Report**
<https://www.rug.nl/ggdc/productivity/pwt/>



ご静聴ありがとうございました